

# ぼれぼれ通信



宇宙、新たに

フロンティアへの挑戦！

11・12月号  
vol.73



# 無限の可能性がある宇宙へ 新たな知の創造を求める!!

「おめでとう、いよいよ日本もICBMを保有したね」と米国の友人からのEメールが届いたのは、H2Aの試験機1号機が発射に成功したとの報道が躍つた2001年の夏のことだつた。ICBMとは、international ballistic missileの略称で、大陸間弾道ミサイルのことを指すが、勿論、我が国にそのようなものは無い。そもそもH2Aロケットの先代のH2ロケットも軌道投入能力などに大きな差はなく、それを言うのであれば、H2ロケットの試験機1号機が打ち上げに成功した1994年に指摘しておくべきことだったのかも知れない。ただ、H2ロケットは安定していかつたので、まだまだ技術面において未熟であり、認

めてもうえていなかつたのかも  
しれない。事実、H2ロケット  
は、6機目、7機目と立て続け  
に失敗し、8機目に至つては、  
打ち上げる前に諦めて運用を終  
了したのである。その後、コスト  
削減など多くの命題を抱えつ  
つH2ロケットを全面改良した  
のが、H2Aロケットである。  
いずれにせよ我が国にICBM  
は無いし、そのようなミサイル  
の能力を有してはいない。

H2Aロケットは、先代のH2  
ロケットを再設計し、100  
パーセント国産だったものを安  
価な外国製、それも最先端技術  
などを必要としない汎用性のあ  
るものに限り採用し、国産比率  
を20パーセント程度下げるこ  
になつたが、打ち上げコストを  
下げるごとに成功した。H2ロ

ケットの打ち上げコストは約180億、H2Aロケットのそれは約100憶までコストカットに成功した。これによりロケットに積載する物品の海外受注も得られるようになつた。現在まで47機が打ち上げられ、その内46機が成功しており97.9パーセントの打ち上げ実績を誇っている。民生ロケット、商業ロケットとしても間違いく世界に誇れるロケットと言える。

のような機会があつたのであるが、当時の文科副大臣が種子島宇宙センターに赴き立ち会うことになり、政務官の山本は、ロケット発射の際に万が一の時にケツト発射に立ち会うことは、文部科学省に対策本部が立ち上がり、その対応をすることになつていて東京において留守番役を務めていた。幸い何事もなく無事に打ち上がったので、対策本部が設置されることは無かつた。そして、政務官退任後も、自民党の文部科学部会の部会長を務めるなど文部科学政策に携わり続けていることもあり、一国会議員としてロケット発射の現場に立ち会う機会を得たのである。8月26日に打ち上げ予定ということで前日には鹿児島へ移動することになつていた。しかし、直前に天候不良のためにその日の打ち上げを延



▲JAXAから打ち上げ概要の説明を受ける山本

ので、翌日や翌々日の打ち上げの可能性は事前に通知があり、それに対応できるのであれば出張の延泊を奨められていたが、山本の公務のためににはそれは叶わなかつた。しかし、結果的に翌日の27日も中止になり、翌々日の28日も打ち上げを試みたが、打ち上げ予定時刻（午前9時26分22秒）の27分前にやはり天候不良（強風）のために中止となつた。因みに打ち上げ時刻は軌道投入を一番効率よく行うために秒単位で決められており、そのタイミングを逃すとまた丸一日待たなければならぬほどに緻密に計算されている。ロケットは燃料を抜き機体を保管する建屋に移動させ、機体や今後の天候の状況を見極めて新たな打ち上げの日程を判断することとなつた。また立ち会う機

## ロケット発射の 貴重な立ち合い

会を逸した山本であつたが、次の機会は思つたより早く訪れた。9月7日に打ち上げることになつたのである。

9月7日、午前4時に鹿児島市内のホテルのロビーに山本の姿はあった。宇宙センターがある種子島に渡る手段が限られていることと種子島に宿泊できる施設が少ないために鹿児島市内に前泊をし、早朝に発たないと打ち上げに立ち会えないと打てる。ホテルから鹿児島本港へ移動し、高速船に乗り込み約一時間半ほど波に揺られ、種子島の西之表港に着岸し、そこから車で約一時間、種子島宇宙センターに到着する。種子島に渡る

## 山本ともひろ 活動レポート

には、飛行機や船の便数は限られており打ち上げに合わせて島に渡るのは困難である。そこで一部の議員からは、打ち上げ時に文科大臣などが視察する際に自衛隊機を使用させてはどうかとの提案がなされるほどである。勿論、自衛隊の任務に他省の閣僚や議員を輸送する業務はない。また仮にそのような本来業務とかけ離れた任務を自衛隊に与えたならば、一気に士気が下がるだろ? ことは容易に想像がつく。従つて、その様な提案に山本は反対している。いつもより少し早起きをした山本は、無事に種子島宇宙センターに辿り着きJAXA（宇宙航空研究開発機構）の山川理事長らの出迎えを受けた。その後、今回打ち上げられるH2Aロケットのミッションや積載される月探査

機「S」—M（スリム）とX線天文衛星「XRISM（クリズム）」の説明などを受け、いよいよ発射の瞬間を待つことになった。ただ、本当に発射されると、直前まで確定しないため全員がまさに固唾を呑んで待つことになる。実際、何度も立ち会おうと足を運んだ議員が何度も中止になり結局見ることが出来なかつた、という事例は良くあるそうだ。ロケット発射時は、安全管理上、射場から3キロ圏内は立ち入りが制限されており、3キロ離れた建物の屋上から見ることになる。ロケットが爆発したり、あらぬ方向に飛んだりしないとも限らないからである。

鏡が渡され、カウントダウンを迎つだけである。しかし、そこで山本があることに気が付いた。「耳栓はいらないのですか?」と山本が聞くと山川理事長が笑いながら「大丈夫です、



▲山本の眼前で打ち上がるH2Aロケット

で山本があることに気が付いた。「耳栓はいらないのですか?」と山本が聞くと山川理事長が笑いながら「大丈夫です、

自衛隊ではないので、そこまで大きな音はしませんよ」と。実際、3キロ離れているので、想像しているような轟音は無く、爪楊枝サイズに見えるロケットの下部が眩しくらいに光つており、それが煙を出して上昇していく、晴天に恵まれたので、肉眼で追えなくなるまでずっと見ていた。見ていられたそうだ。

## 宇宙基本法で開かれた未来

今回、初めてロケットの発射を見た山本であるが、宇宙政策への関りは随分前からあった。まだ山本が一期生（当選一回）だった平成20年、議員立法によって宇宙基本法を制定した。その際に、議員立法を推進する議員連盟の事務局次長に一期生

ながら抜擢されていた。抜擢の理由は、山本が松下政経塾時代に「制宙権の確保」—ミニサイル防衛の可能性と限界—と題した論考を発表していたのを関係者が見ており、新人議員で興味深い観点から宇宙政策を論じているとの評を得てのことであった。

宇宙基本法の制定により宇宙政策の司令塔を文科省から内閣総理大臣に移し、国家的な宇宙開発戦略を推進する体制を構築し、以前まで不可能だった防衛目的での宇宙利用に道を開き、早期警戒衛星の保有も法律上可能としたのだ。2017年には、防衛省が初めて独自に運用する通信衛星「きらめき2号」を搭載したH2Aロケットが打ち上げられている。研究開発も

強化され、H2Aロケットの後継機としてH3ロケットの開発も進んでおり、打ち上げコストも更に削減し、国際競争力を強化し、自立的な衛星打上げ能力を確保する。新たな知を求める宇宙探査にも興味深いプロジェクトが目白押しである。例えば、月周回有人拠点「ゲートウェイ」、有人与圧ローバ開発、火星衛星探査計画（MMX）、新型宇宙ステーション補給機（HTV-X）、深宇宙探査実証機（DESTINY+）、はやぶさ2拡張ミッションなどなど挙げれば切りがなく、本号では紹介し切れないのである。引き続き山本の宇宙政策への関与とその成果を本紙で皆様に報告していきたい。

※冒頭写真は、JAXA提供。



# 駅で「ぽれぽれ通信」をお配りしております 駅頭活動報告

駅頭活動の初期から挨拶してくれていた女の子が、なんと！大学2年生になっていて、思わずビックリしました。年月が経つのは早いですね。

朝の6:30～8:30までの2時間にわたり、4区内の下表の駅で活動をさせていただいております。

※雨の日は鞄と傘をお持ちの皆様が多いので、駅頭活動を控えています。



### 前回の「ぽれぽれ通信」配布数

7月・8月集計分

駅名	7月	枚数	8月	枚数	前月比
逗子駅	4日(火)	277	25日(金)	282	↑
逗子・葉山駅	7日(金)	203	—	—	—
鎌倉駅(東口)	10日(月)	299	2日(水)	207	↓
鎌倉駅(西口)	11日(火)	298	28日(月)	266	↓
大船駅(西口)	28日(金)	223	—	—	—
大船駅(モノレール口)	20日(木)	293	30日(水)	296	↑
大船駅(東口)	21日(金)	208	31日(木)	292	↑
大船駅(笠間口)	24日(月)	282	—	—	—
本郷台駅	25日(火)	208	21日(月)	288	↑
港南台駅	23日(月)	154	—	—	—
	7月配布合計	2445	8月配布合計	1621	—

簡単にアクセス  
できます！



(旧Twitter)



facebookは本人がやっています

専用のアプリをダウンロードして右のQR  
コードを読み取りください。(iPhone除く)



HP

# 山本ともひろプロフィール

## 経歴

- 関西大学 商学部 卒業
- 京都大学 大学院 修士課程(法学)修了
- (財)松下政経塾 卒塾(21期)
- 米国ジョージタウン大学 客員研究員、その後、会社員を経て
- 平成17年 衆院選 初当選
- 平成26年 文部科学大臣政務官・復興大臣政務官 就任
- 平成27年 オリンピック・パラリンピック大臣政務官 就任
- 平成29年 防衛副大臣・内閣府副大臣 就任
- 平成30年 自民党 国防部会長 就任
- 令和元年 防衛副大臣・内閣府副大臣 就任
- 令和3年 自民党 文部科学部会長 就任

自由民主党  
衆議院議員(5期 15年)

神奈川4区(栄区・鎌倉市・逗子市・葉山町)  
昭和50年(1975年)生まれ  
48歳 鎌倉在住



分かりやすく大人気!

## 国会見学案内実施中!

国会を山本ともひろと一緒に見学してみませんか?

「政治が身近に感じられた」「分かりやすく、楽しかった!」と大人気の見学ツアーは無料で行っています。詳細は下記の事務所まで、お気軽にお電話ください。

## ぽれぽれ通信って何?



「ぽれぽれ」は、ケニアの公用語のスワヒリ語で「ゆっくり、ゆっくり」という意。私は、ケニア・タンザニア米国大使館同時爆破テロの現場(ケニア)に居合わせたのがきっかけで政治家を志しました。

一度に全てを変えることは無理でも、諦めず、ゆっくりでも少しずつでも政治をえていきたい。そうしなければこの国は良くならない…。そしてその活動を皆様にお伝えしていきたいという想いを込めて、この冊子を作っています。



## 山本ともひろ事務所リスト

本部事務所

神奈川県鎌倉市大船1-22-2 つるやビル 301

TEL:0467-39-6933 FAX:0467-39-6943

国会事務所

東京都千代田区永田町2-1-2 第2議員会館 1110号室

TEL:03-3508-7193 FAX:03-3508-3623

令和5年(2023年)11月1日発行 第73号

※本誌は、隔月(1、3、5、7、9、11月)発行の機関誌です。バックナンバーについては上記事務所までご連絡ください。  
またHPにも掲載しておりますのでご覧ください。